

2019年5月17日

沖縄県U小学校5年1組

指導者 U (英語専科教師), N (ALT)

【本時の目標】

- 好きかどうかを尋ね合う表現を用いたやりとりを聞いて内容が理解できる。
- 自分の好みや考え、気持ちなどについて使用表現を用いて伝え合うことができる。

I like …

I don't like ….

【授業の展開】

1. U小のチャンツ
2. 前時の復習をする
3. スモールトーク
4. チャンツをする
5. アクティビティを行う
6. 本時で学んだ表現を使ってやりとりを行う
7. 本時の学習を振り返る
8. 次時予告

【感想】

○スモールトーク (指導者はミニミニトークと言っていました) で児童に前時の表現を使って I like …, I don't like … を言わせる活動を行いました。ドリルとしてはそれでもよいと思います。しかし、いきなり I like …, I don't like … という言い方をさせると、とにかく自分が言えるもの (頭に浮かぶもの) を言うということになりがちです。日によって「好きな食べ物」とか「好きなスポーツ」などとテーマを決めると発話するときには児童は「少し考える」と思います。その「少し考える」活動を多く取り入れるようにするとよいと思いました。

○Do you like….? Yes, I do. No I don't. のチャンツをしました。チャンツは「言い慣れる」効果もありますが、あまり長いとだんだん何も考えずに言うようになります。機械的にならないようにするには指導者が示す絵と発音をわざと間違えて言うなどの工夫も効果的です。絶えず絵の表す単語の意味に注意がいくように工夫するとよいでしょう。後の教師の指示で Are you ready? というのがありましたが、チャンツと似たリズムだったので、児童は Yes, I do. と答えていました。このようなことは良く起こることですので注意する必要があると思います。

○指導者の好きなものや嫌いなものを予想させて Do you like …? と問わせたのは良かったと思います。ワークシートの自由欄をもっと活かすようにするともっと良かったと思います。



○ミラクルフレンズゲームはやや複雑なゲーム（このクラスに○○が好きな人が何人いるかを予想しながら Do you like○○? と聞く。当たればポイントをもらえる）だったので、児童はゲームのやり方を十分に理解できているかどうか心配でした。しかし、やっているうちにわかるようになってきました。複雑なゲームの場合は日本語でもよいので、そのやり方を明確に示しておくことが児童に過度な負担を与えないという点からは有効と思うのですが、今回の場合はやっているうちに児童はそのルールがわかるようになる仕組みになっていました。児童が指導者の英語やデモンストレーションを聞きながら理解していくのは素晴らしいことですが、複雑なゲームは一步間違えば児童には意味がわからないまま進んでしまうケースもあるので注意する必要があるように感じました。ゲームとしては面白いものでした。Ice cream が嫌いな人はほとんどいないと考えて、Do you like ice cream? と聞いた児童はこのゲームの面白さがわかっていると思いました。

○全体的にみると、授業は本時の目標の達成のために展開していったと思いました。豊富な英語のインプットがあったのも良かったと思います。活動の指示として Pair, pair と言ってペアを作ることを促す場面がありましたが、Make a pair. などのようにフルセンテンスで言ったほうが学習が受けるインプットとしては望ましいと思います。

○今後検討することとしては「目的、場面、状況等」の設定を明確にした言語活動を行うことだと思います。何のために Do you like ice cream? と聞くのか、そしてどんな場面や状況でその表現を使うのかを考えさせるようにするとよいと思います。もちろん本時の授業は5年生（教科）でありながら、ゲームを中心とした Hi, friends! を教材として使っているために、教科書に沿ってやると結果的にゲーム中心になることでしょう。やむを得ないこともありますが、先行実施をするからには、新学習指導要領を踏まえて「教科書を教える」ではな

く、「教科書で教える」ということも必要かもしれません。

○ミラクルゲームは楽しいものでした。児童もゲームを楽しんだと思います。今後は、高学年ではゲームを脱して真の意味の言語活動（「目的，場面，状況」を明確に示したうえで自分の考えや気持ちを述べる）にウエイトを移していくことが必要となるでしょう。ここが、今後、U小学校が授業を創る時のポイントとなるのではないのでしょうか。「新しい学習指導要領を踏まえる」ということはそういうことだと思います。

○授業の最後に指導者が「今日はみんなが仲良くなる時間だったので良かった。」と話されました。ずっと英語を使ってきたあとの日本語だったので新鮮に聞こえたと同時に、指導者はこのことを考えながら授業をしてきたのだということがわかりました。これは英語の授業で最も大切にしたいことだと私は考えています。授業者も同じことを考えて授業をされていたことがとても嬉しく思いました。「言葉は人と仲良くなるために使う」ということを児童が体験することができるからこそ小学校で外国語・外国語活動をやる意味があると思います。そういう意味では、いろいろと課題はあったにしても、授業としては成功だったのではないかと思います。素晴らしいと思いました。